

研究種目： 基盤研究 (C)
 研究期間： 2007 年度 ～ 2009 年度
 課題番号： 19592499
 研究課題名 (和文) 小児慢性腎疾患患者のセルフマネージメントを支援する外来看護モデルの開発
 研究課題名 (英文) Development of a Nursing Model to Support Self-Management of Adolescents with Chronic Renal Disease in outpatient
 研究代表者
 野間口 千香穂 (NOMAGUHI CHIKAHO)
 宮崎大学・医学部・准教授
 研究者番号： 40237871

研究成果の概要 (和文)：

本研究は、平成 19 年度より 3 年間、小児慢性腎臓病患者のセルフマネージメントを支援するための外来看護モデルの開発を目的として行われた。初年度は、外来看護モデル開発を行うための基礎的資料を得るために「慢性腎疾患をもつ思春期患者のセルフマネージメントの構造」に関する面接調査を行った。その結果、小児慢性腎疾患患者の思春期のセルフマネージメントの構成要素を抽出でき、セルフマネージメントの履行に影響する要素はケア提供者との交渉であることが示唆された。以上の基礎的資料と文献的考察をもとに看護モデルを作成し、「交渉スキル・トレーニング」を組み入れたセルフマネージメント支援プログラムを開発した。今後、臨床適用による開発したプログラムの評価を行っていききたい。

研究成果の概要 (英文)：

The purpose of this study was to develop of a nursing model to support adolescents with chronic renal disease in outpatient. For the basic study, thirteen adolescents with chronic renal disease were interviewed using semi-structured interview about their self-management activities. The results showed 6 constructs of self-management of adolescents with chronic renal disease and some characteristics of self-management activities. These suggested that the interaction with caregivers serve as chance for adolescents learning self-management skill. On the basis of the results and the review of the literature, a nursing model was developed. Finally, the self-management program for adolescents with chronic renal diseases including the negotiation skill training was developed. Hereafter, we will evaluate the clinical application of this program.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007 年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2008 年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2009 年度	900,000	270,000	1,170,000
年度			
年度			
総計	3,000,000	900,000	3,900,000

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学・臨床看護学

キーワード：小児慢性腎疾患、思春期、学童期、看護介入、外来看護

1. 研究開始当初の背景

(1) 入院期間が短縮され、家庭や外来で高度な治療が可能となった今日の医療環境の変化は、小児慢性疾患患者とその家族にとって疾患管理や疾患に伴って生じる社会的困難に対するセルフマネジメントスキルを身につける必要性をもたらしている。そのため、小児慢性疾患患者を支援する外来看護の充実の必要性が高まっている。

(2) 看護実践や看護研究におけるセルフマネジメントの定義や概念は、明確ではなく、統一した用語の用いられ方がなされておらず、日本では慢性疾患の子どもを対象としたセルフマネジメントの概念の検討はなされていない。

(3) 慢性性疾患の思春期におけるセルフマネジメントに関する理論モデルの開発は今なお十分ではなく、これまでの慢性疾患のセルフマネジメントおよびアドヒアランスやコンプライアンスを促進するための介入方法の評価研究は、主に国外ではなされてきているが、さまざまな変数の影響を受けやすく、看護介入の成果を測定するための適切な測定用具の検討も必要とされている。

(4) 看護介入方法として、海外では1型糖尿病の思春期の子どもを対象としたアドヒアランスを高めるためのグループアプローチによる看護介入が検討されており、子ども自身の認知的プロセスにアプローチする方法が開発されてきているが、国内ではあまりなされていない。また、小児慢性腎疾患患者を対象とした看護介入方法の検討や開発はほとんどなされていない。

2. 研究の目的

本研究の目的は、小児慢性腎疾患患者のセルフマネジメントを支援するための外来看護モデルを作成し、看護介入方法を開発することであった。具体的目標は以下の通りとした。

(1) 慢性腎疾患をもつ子どもの思春期のセルフマネジメントの構成要素を明らかにする。

(2) (1)の結果と文献検討をもとに、外来看護におけるセルフマネジメントを支援する看護モデルを作成する。

(3) (1)(2)の結果をもとに、小児慢性腎臓病患

者のセルフマネジメントを支援する看護介入プログラムを開発する。

3. 研究の方法

(1) 小児慢性腎疾患患者のセルフマネジメントの構成要素の明確化

①慢性疾患の学童期・思春期のセルフマネジメントの概念分析：1995年から2007年に公表された海外文献のうち、タイトルにself-managementを含む小児を対象とした研究論文を分析対象として、Rogersの概念分析のアプローチを用いて概念分析を行った。

②慢性腎疾患をもつ思春期患者の面接調査：
・対象：小児慢性腎臓病と診断されて、少なくとも1年を経過している現在10歳から18歳（小学5年生～高校3年生）である外来通院している患児13名。

・データ収集方法：インタビューガイドを用いた半構成的面接を行い、ICレコーダーを用いて録音した。

・面接内容：a. 自分の体調の把握のしかた、b. 変化を感じた場合の行動、家族や医療者をどのように巻き込んでいるか、c. 処方されている疾患管理行動をとる際の友人など他者との関係調整のしかた。

・データ分析方法：得られたデータから逐語録を作成し、セルフマネジメントに関する内容を抽出し、内容分析を行い、カテゴリ化を行った。さらに各カテゴリ間の関係、カテゴリの特性、カテゴリへ影響要因などについて検討を行なった。データを収集するプロセス、および分析の過程では定期的に小児看護に精通した研究者、および慢性腎疾患の外来診療にあたる専門家からのスーパーバイズを受け、信頼性と妥当性の確保に努めた。

・宮崎大学医学部医の倫理委員会の承認を得た（宮崎大学医の倫理委員会承認第369号）。

(2) 外来看護におけるセルフマネジメントを支援する看護モデルの検討と作成

(1)の結果と理論的前提に関する文献的考察を統合して、作成した。

(3) 看護介入プログラムの開発

(1)(2)の結果、ならびに方法論に関する文献的考察、内容的妥当性の検討を基に、看護介入プログラムを開発した。内容的妥当性については、小児慢性腎臓病専門医、小児看護専門看護師、小児慢性腎疾患経験者によるレビューとそれに基づく修正を行った。

4. 研究成果

(1) 慢性腎疾患の思春期患者のセルフマネジメントの構造 (図1)

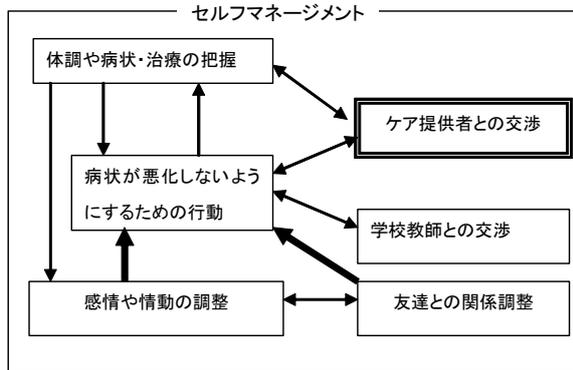


図1 セルフマネジメントの構造

- ①セルフマネジメントの構成要素として、「体調や病状、治療の把握」、「病状が悪化しないようにするための行動」、「感情や情動の調整」、「ケア提供者との交渉」、「学校教師との交渉」、「友達との関係維持」の6つの構成要素が抽出でき、それぞれの要素の下位概念を抽出することができた。
- ②小児慢性腎臓病の思春期患者のセルフマネジメントは、「ケア提供者との交渉」を通して行われる「体調や病状、治療の把握」と「病状が悪化しないようにするための行動」を起すことと、それによって生じる「感情や情動を調整」しようとする認知的プロセスであり、「病状が悪化しないようにするための行動」は、学校では「学校教師との交渉」を通して行われ、「友達との関係調整」「感情や情動を調整」はその継続に影響する」と定義された。
- ③慢性腎疾患患児のセルフマネジメントの特徴として以下のことが明らかになった。
 - a) 慢性腎疾患患児は、ケア提供者との交渉を含めた相互作用の中で、病状や治療の把握、悪化予防行動をとっていた。
 - b) 慢性腎疾患患児は a) の体験を通して、セルフマネジメントを学習し、それによって得た知識をもとに学校教師と交渉していた。
 - c) 病気体験で生じる負の感情・情動を調整しており、それは友達との関係維持が影響していた。
 - d) セルフマネジメントの帰結は、子ども自身のわかる感覚の増加、親からの責任の移行と自立、普通でいられる感覚であった。

(2) 小児慢性腎臓病患者のセルフマネー

ントを支援する外来看護モデルの作成

①外来看護モデル作成の根拠

結果(1)より、以下のことを根拠をして、外来看護モデルを作成した。

- a) 慢性腎疾患患者は、思春期にケア提供者との交渉を含めた相互作用の中でセルフマネジメントを履行している。
- b) 慢性腎疾患患者のケア提供者との交渉は、セルフマネジメントスキルの学習につながる。
- c) 病気体験で生じる負の感情・情動を調整しており、それは友達関係に影響される。
- d) セルフマネジメントによって、わかる感覚の増加、親からの責任の移行と自立、普通でいられる感覚の帰結が得られている。

これらのことは、小児慢性腎臓病患者は思春期を通して、ケア提供者との交渉を含めた相互作用の中で、自らセルフマネジメントを行っており、それと同時にその体験を通してセルフマネジメントスキルを学習していることを示していた。

②外来看護モデルの理論的前提に関する文献的考察

前述の小児慢性腎疾患のセルフマネジメントの現象は、Bandura の社会的学習理論と Vygotsky の発達理論を理論的前提にすることによって、次のように説明できた。「小児慢性腎臓病患者のセルフマネジメントは、疾患を管理したり、悪化を予防したりする活動とともに病気によって生じる負の体験や感情を調整していく活動も含まれており、これは彼らが自分の体調や疾患に対してどのように認識しているかによって、行動が異なっている。思春期においてこの認識は、親や医師といったケア提供者との相互作用の中で形成される。このようなケア提供者とのコミュニケーションは、ある時は相互に意識的になされ、ある時は日常生活の中で強く意識することなく行われ、それらの体験を通して、彼らはセルフマネジメントに必要な知識やスキルを学習している。」

特に身体的感覚によって自分の体調や病状を把握しにくい小児慢性腎疾患の場合には、このようなコミュニケーションは病気に対する認識形成やセルフマネジメントスキルの獲得において重要な役割を果たすことが示唆された。

③外来看護モデルの作成

以上の基礎的資料と文献的考察を基盤として、ケア提供者との交渉のためのスキルを学習する機会を提供することを含めた看護介入を行うことによって、小児慢性腎臓病患者のセルフマネジメントの履行と彼らの分かる感覚、責任の移行と自立、普通でいられる感覚を促進できるという看護モデルを作成した (図2)。

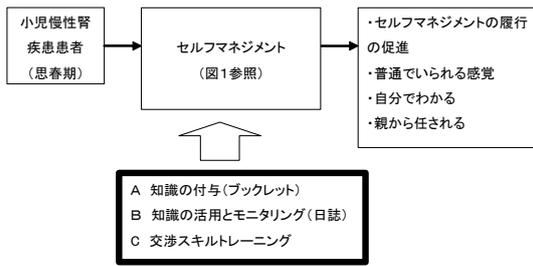


図2 外来看護モデル

(3) 小児慢性腎臓病患者のセルフマネージメントを支援する看護介入プログラムの開発

①プログラムの目的

本プログラムの目的は、小児慢性腎臓病患者の思春期のセルフマネージメントを支援することとした。思春期患者自身に知識を付与するとともに体調や病状の把握を支援し、ケア提供者との交渉のためのスキル獲得の学習の機会を提供することによって、思春期患者のセルフマネージメントの履行を支援するとともに生活や診療の場でセルフマネージメントを学習できる機会を提供するもので、その成果として、セルフマネージメントが促進され、日常生活の中で「ふつう」という感覚や思春期患者自身が日常生活場面でどのようにすればいいか自分でわかる感覚を高め、セルフマネージメントの責任を引き受ける準備ができることとした。

②プログラムの骨子

以下の3つの骨子によって構成されている。

A:「セルフマネージメントのためのブックレット」による知識の付与

B: セルフマネージメント日誌の記載による知識の活用とセルフモニタリング支援

C: ピア・サポートによるスキル・トレーニングの3つの骨子によって構成した。

- ・ブックレットの内容: セルフマネージメントの構成要素である《体調や病状・治療の把握》《悪化予防のための行動》《ケア提供者との交渉》《学校教師との交渉》《感情や情動の調整》《友達との関係維持》に必要となる具体的な知識とスキルを記載した。内容妥当性は小児病棟に勤務する看護師1名、小児看護学を専攻する大学院生1名、小児看護研究者1名、小児科医2名、中高生の時にネフローゼ症候群の経験がある大学院生1生にレビューを依頼し、検討し、修正を行った。
- ・日誌の内容: 《体調や病状・治療の把握》のために必要な具体的な項目と《悪化予防のための行動》を行うときに用いる交渉のスキルや自分の感情や情動に関して気づいたことを記載する欄を設けた。内容妥当性をブックレットの同様にレビュー

を依頼し、検討して修正を行った。

- ・交渉スキル・トレーニングの内容: 社会的スキル・トレーニングの方法論を参考にし、教示、モデリング、練習、フィードバックのプロセスをたどる展開となるように計画した。方法的な妥当性については、小児を対象としている臨床心理士のスーパーバイズを受けて、検討修正を行った。

③プログラムの運用に関する検討

- ・運用のためのプロトコル、交渉スキル・トレーニングの実施要領を作成した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[学会発表] (計1件)

- ①野間口千香穂、慢性腎疾患をもつ子どもの思春期におけるセルフマネージメント, 第55回日本小児保健学、平成20年9月26日、札幌市

6. 研究組織

(1) 研究代表者

野間口 千香穂 (NOMAGUCHI CHIKAHO)

宮崎大学・医学部・准教授

研究者番号: 40237871